

平成 30 年度第 12 回価格審査会の開催について

平成 30 年度第 12 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	平成 31 年 3 月 14 日(木) 10 : 00 ~ 11 : 30		
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室		
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長	
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長	
	森田 義則	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長	
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長	
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：康広 誠己	
	第一土木調査部	部長：高橋 俊一	
	建築調査部	部長：加納 慎二、課長：高梨 卓司	
	監査審査室	室長：後藤 裕	
	調査統括部(事務局)	部長：鈴木 昌樹、次長：古井戸 宏、課長：菊池 信博	

平成 30 年度第 11 回価格審査会議事録(案) 確認

平成 30 年度第 12 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号、「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向
・	価格が上昇した資材は、異形棒鋼（九州の各都市）、伸銅品（全都市）、レディーミクストコンクリート（千歳、花巻、北上、西和賀町、さいたま、川越、所沢、練馬区・板橋区、甲府、松本A、飯田、伊那、安曇野、長岡、見附、沼津、御殿場、小山町、松阪、大台町、福井、呉、竹原、東広島、岩国A・B・C、四万十、別府）、再生砕石・再生砂（室蘭、富岡、阿蘇）、アスファルト混合物・再生アスファルト混合物（静岡、伊勢、大津、米子、益田）、針葉樹・高木（新潟、金沢）、電線（全都市）、燃料油【軽油ローリー渡し】（中国除く各都市）、鉄スクラップ（全都市）、非鉄スクラップ【銅】（全都市）などであることを説明。
・	価格が下落した資材は、異形棒鋼（九州の各都市）、ステンレス鋼（全都市）、レディーミクストコンクリート（仙台）、ストレートアスファルト・アスファルト乳剤（那覇）、燃料油【軽油ローリー渡し】（北海道の各都市、那覇）、鉄スクラップ【鉄】（関東除く各都市）、非鉄スクラップ【アルミ】（全都市）などであることを説明。
・	価格が上昇した工事費は、【土木コスト情報：市場単価】インターロッキングブロック工、法面工、吹付砕工、鉄筋挿入工、硬質塩化ビニル管設置工、砂基礎工、組立てマンホール工、【建築コスト情報：市場単価】コンクリート工事、絶縁電線工事などであることを説明。
・	価格が下落した工事費は、【土木コスト情報：市場単価】鉄筋工、ガス圧接工、【建築コスト情報：市場単価】鉄筋工事、圧接工事などであることを説明。

審議資料の説明

2. 注目資材

- ・ 電材【関東】
- ・ インターロッキングブロック工【東京】

3. 比較資料

- ・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	掲載価格の地区表示でブロック別価格や都市別価格などがあるが、この地区表示はどのように決めているのか。	生コンなど地域性の強い資材は、各都市で価格が異なっていることから、都市別価格で掲載している。一方、広域で同一市況エリアが形成されている資材は、ブロック別価格で表示している。
審議 2	鉄スクラップ価格は下落が続いていたが、今回の調査で上昇に反転した要因は何か。	海外の鉄スクラップ相場が上昇したことにより輸出価格も上昇した。国内電炉メーカーも製品を製造するためにスクラップを確保する必要があり、買入価格を引き上げなければならない状況となった。このため市中価格も上昇した。
審議 3	土木コスト情報の土木工事標準単価で用いる単価は調査会独自のものか。	材料費、歩掛等は当会が独自で調査をしている。労務費は公共工事設計労務単価を使用し、これらを基に算定した単価である。
審議 4	建築コスト情報の建築工事市場単価にある鉄筋工事と標準施工単価の鉄筋工事では何が違うのか。	建築工事市場単価は、国土交通省の定めた調査内容・手法等によって調査を実施している。標準施工単価は、当会が独自に調査内容・手法等を定め調査をしたものである。
審議 5	コンクリート製品で鳥取市の変動率が高いのは、どのような理由があったのか。	メーカーは出荷量が大きく減少し採算が悪化したため、製品価格を大幅に上げざるを得ない状況になったためである。
審議 6	「ー」から価格掲載へという資材があるが、これはどういうことか。また、「・・・」の意味は何か。	当該地区においてこれまで流通していなかった製品が、新たに流通が開始した場合は「ー」から価格掲載に切り替えている。「・・・」は、当該地区において極めて流通が少ない、または価格決定が難しい場合に使用している。
審議 7	土木工事標準単価は、どのような背景から調査を始めたのか。	国土交通省「土木工事積算基準書」に記載のない工種の中から、NETIS 工法や受託調査で調査依頼の多い工種などについて、独自で歩掛を調査し都道府県別に算出した標準単価を会誌に掲載することで顧客の要望に応えたいとの思いからこの取り組みを開始した。
審議 8	生コンについて協組の価格体系見直しとの説明があったが、具体的にはどのようなものか。	同一強度の中でスランプの違いによる価格差をなくすというものである。価格体系をシンプルにしようという動きが業界にある。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 9	日銀企業物価指数と建設物価価格指数の推移において、資材によって異なる動きがみられるのはなぜか。	企業物価指数はメーカーから問屋、販売店等への出荷価格、建設物価価格指数は問屋、販売店等から需要家への販売価格を対象にしている。調査段階の違いが理由として考えられる。
審議 10	石こうボードについて、企業物価指数は毎月変動しているが、建設物価価格指数には変動がみられないのはなぜか。	メーカーと問屋の仕切価格は月ごとに価格が変わっても、問屋と需要家の取引においては仕切価格の変動をすぐに販売価格へ転嫁できないためである。
審議結果	「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号、「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向に問題はなかった。	

以 上